



御祭神 七尊  
御祭神 七尊は世襲へのご協力お願い  
1. 御祭神 七尊  
2. 御祭神 七尊  
3. 御祭神 七尊  
4. 御祭神 七尊  
5. 御祭神 七尊  
6. 御祭神 七尊  
7. 御祭神 七尊  
8. 御祭神 七尊  
9. 御祭神 七尊  
10. 御祭神 七尊  
11. 御祭神 七尊  
12. 御祭神 七尊  
13. 御祭神 七尊  
14. 御祭神 七尊  
15. 御祭神 七尊  
16. 御祭神 七尊  
17. 御祭神 七尊  
18. 御祭神 七尊  
19. 御祭神 七尊  
20. 御祭神 七尊  
21. 御祭神 七尊  
22. 御祭神 七尊  
23. 御祭神 七尊  
24. 御祭神 七尊  
25. 御祭神 七尊  
26. 御祭神 七尊  
27. 御祭神 七尊  
28. 御祭神 七尊  
29. 御祭神 七尊  
30. 御祭神 七尊  
31. 御祭神 七尊  
32. 御祭神 七尊  
33. 御祭神 七尊  
34. 御祭神 七尊  
35. 御祭神 七尊  
36. 御祭神 七尊  
37. 御祭神 七尊  
38. 御祭神 七尊  
39. 御祭神 七尊  
40. 御祭神 七尊  
41. 御祭神 七尊  
42. 御祭神 七尊  
43. 御祭神 七尊  
44. 御祭神 七尊  
45. 御祭神 七尊  
46. 御祭神 七尊  
47. 御祭神 七尊  
48. 御祭神 七尊  
49. 御祭神 七尊  
50. 御祭神 七尊  
51. 御祭神 七尊  
52. 御祭神 七尊  
53. 御祭神 七尊  
54. 御祭神 七尊  
55. 御祭神 七尊  
56. 御祭神 七尊  
57. 御祭神 七尊  
58. 御祭神 七尊  
59. 御祭神 七尊  
60. 御祭神 七尊  
61. 御祭神 七尊  
62. 御祭神 七尊  
63. 御祭神 七尊  
64. 御祭神 七尊  
65. 御祭神 七尊  
66. 御祭神 七尊  
67. 御祭神 七尊  
68. 御祭神 七尊  
69. 御祭神 七尊  
70. 御祭神 七尊  
71. 御祭神 七尊  
72. 御祭神 七尊  
73. 御祭神 七尊  
74. 御祭神 七尊  
75. 御祭神 七尊  
76. 御祭神 七尊  
77. 御祭神 七尊  
78. 御祭神 七尊  
79. 御祭神 七尊  
80. 御祭神 七尊  
81. 御祭神 七尊  
82. 御祭神 七尊  
83. 御祭神 七尊  
84. 御祭神 七尊  
85. 御祭神 七尊  
86. 御祭神 七尊  
87. 御祭神 七尊  
88. 御祭神 七尊  
89. 御祭神 七尊  
90. 御祭神 七尊  
91. 御祭神 七尊  
92. 御祭神 七尊  
93. 御祭神 七尊  
94. 御祭神 七尊  
95. 御祭神 七尊  
96. 御祭神 七尊  
97. 御祭神 七尊  
98. 御祭神 七尊  
99. 御祭神 七尊  
100. 御祭神 七尊







祝七五三



















源氏物語 宇治十帖(四)

早蕨

年改まり、宇治の山荘にも春が来た。

今年も山の阿闍梨から、蕨や土筆などが

贈られてきた。

中君は亡き父君や姉君を偲びつつ

この春はたれにか見せむ亡き人の

かたみにつめる峰の早蕨

と返歌なされた。

二月の上旬、中君は句宮の二条院へ迎

えられ、行先の不安を感じつつも、幸福な

日々が続く。

夕霧左大臣は、娘の六君を句宮にと思

っていたので、失望し、薫君にと、内意を伝

えたが、大君の面影を追う薫君は、おだ

やかに辞退した。

花の頃、宇治を思いやる薫君は、二条院

に、中君を訪ねては懇ろに語るが、句宮は

二人の仲を、疑い始める。

平成十八年十月

財 宇治市文化財愛護協会









世界文化遺産  
宇治上神社











国主拝殿

御名 国主  
御祭神 天照大神  
一宮 国主殿 西寺一宮 在竹  
竹成宮  
從前 皇御代  
昭和三十三年十月二十日 皇御代  
明治四十二年 神社本廳



















秋保神社















早 蕨  
SAWARABI









# ヒカルゲンジ

(光源氏)

種…ツバキ

花姿…淡紅地に

紅の縦絞りや白覆輪が入る  
牡丹咲き、散しべ

花の大きさ…

開花時期…3月～4月

葉形…長楕円形、中形

樹形…立性



宇治市







与謝野 品子

橋姫

しめやかに心の濡れぬ川ざりの立舞ふ  
家はあはれなるかな

椎が本

朝の月涙の如し真白けれ御寺のか  
ねの水わたる時

総角

こころをば火の思ひもて焼かましと願ひ  
き身をば煙にぞする

さわらび

さわらびの歌を法師す君に似ずよき言  
葉をば知らぬめでたさ

宿り木

あふけなく大御女をいにしへの人に似よ  
とも思ひけるかな



































